

# 仕合わせの和

## 養珠院お萬の方

住職 谷川寛俊

江戸幕府を開いた徳川家康公の側室に「養珠院お萬の方」という人物がいました。水戸黄門でお馴染みの徳川光圀公の祖母に当たる方で、日蓮宗（法華経）の教えを熱心に信仰した方でした。戦国の乱れた世から江戸時代初期にかけて活躍された方です。

縁あって17歳の時に徳川家康に仕え、その美しい容姿と誠実な人柄から家康に見初められ側室となられました。子である頼宣（よりのぶ）は、徳川御三家である、紀州徳川家の初代藩主に、また頼房（よりのぶさ）は、水戸徳川家の初代藩主となり、頼房の三男があ有名な水戸黄門様です。

お萬の方は生涯を通して日蓮聖人の教えを信仰し、お寺の建立や寄進に力を注がれ、そこには実父や養父の信仰の影響を大きく受け継がれたと考えられています。

第198号  
H. 30. 9. 1  
(毎月1日発行)

お萬の方の信仰の深さを物語るエピソードを1つご紹介します。

慶長十三(1608)年、家康は京都妙満寺二十七世、常楽院日經上人に浄土宗の僧侶との法論を命じました。ところが法論の前夜、日經上人は暴徒に襲撃され、瀕死の重傷を負い法論をする事が出来ず日蓮宗の敗北とされたのです。

これにより幕府は全国の日蓮宗寺院に敗北を認める誓状を提出することを命じました。これに対して身延山の日遠上人は断固拒否したため、家康の怒りをかい、張り付けの刑に処されそうになり、これを聞いたお萬の方は「日遠上人が張り付けの刑に処されたならば、自分も日遠上人と共に命を捨てます」と家康に訴えました。家康はその信仰心の深さに心をうたれ、日遠上人を許したということです。

そして元和2(1616)年に、家康が亡くなった3日後に、お萬の方は静岡市の感応寺で髪をおろし、尼僧となり、名を養珠院と改められ、家康の死を期に、一層仏道の信仰が深いものとなっていきました。

「仕合わせの和」  
と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。

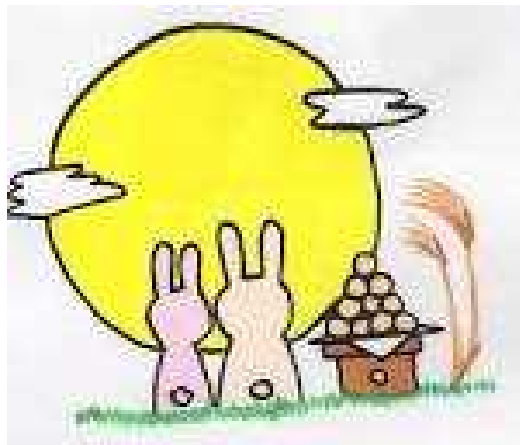
編集・発行  
玉蓮山 真成寺  
編集部 谷川久仁子  
TEL・FAX 0765-22-2268  
携帯 080-3744-2523  
こちらの番号でもお寺につながります。

家康の3回忌の時には、今まで女性禁制とされていた七面山に、「法華経守護の七面天女の御山に、法華経を信ずる女人が登れぬはずがない」と、女性として初めて七面山に登り、女人禁制を解いたことでも知られています。

その後、家康の二十三回忌、二十七回忌と計3回も登られ、最後に登られたのは74歳でお亡くなりになる3年前のことでした。養珠院お萬の方の信仰の深さがうかがえます。

また、お萬の方は亡き夫や、父母の供養の為、そして国家の安泰を祈念してお寺や僧侶に沢山の供養や寄進をされています。特に身延山にある大鐘や、大野山本遠寺の建立等々、多くの寺院建立の寄進を行い善行を積まれたのでした。

日蓮聖人の『開目抄』という御文章に「仏弟子は必ず四恩を知って、知恩報恩を奉(ほう)ずべし」とあります。



つまり、法華経を信仰する者は、必ず父母の恩・一切衆生の恩・国王の恩・三宝の恩という4つの恩を知って、その恩に報いなければならぬという事を教えられているのです。